

釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

お ん ね な い

月刊 温根内 通信

—— 2024 年 12 月号 No.339

12 月 15 日（日）発行 ——



数秒間の出会い

12 月に入ると釧路地方には一気に真冬のような寒さが訪れ、キンと張りつめた空気に包まれています。

木々の葉もすっかり枯れ落ち、見通しのよくなった湿原。鳥の観察にはもってこいですが、そんな状況下でもなかなか姿を捉えるのが難しい種もいくつかいます。この日、突然ヨシの陰から現れたのはミソサザイ。尾羽をピンと立てこちらを警戒しつつ、湿原の奥へと去っていきました。ほんの数秒の出来事でした。

☆☆☆ 温根内木道周辺で見られた自然（11/15～12/14） ☆☆☆



【ホロムイツツジ】

ツツジ科 幌向躑躅

葉を落とさず冬を越す樹木です。ミズゴケ湿原ではこのような矮小低木と呼ばれる種がいくつかあります。



【チャミダレアミタケ】

タコウキン科 茶乱網茸

7月頃から見られ、ハンノキが葉を落とすと存在感が増すキノコ。触ると意外に硬いのに気づきます。



【アイスバブル】

やちまなこで見られます。植物の分解過程で出る気泡が水面に張った氷で閉じ込められる現象。雪で覆われると見えなくなってしまいます。



【ハイイロチュウヒ】 冬鳥

タカ科 灰色沢鷲

ミズゴケ湿原を低空で飛んでいました。よく似たチュウヒよりも見る機会の少ない冬鳥です。



【ツグミ】 冬鳥

ツグミ科 鶇

全国的にみられる冬鳥。群れで行動していることが多く、この日は木の枝先からこちらを窺っていました。



【マヒワ】 漂鳥

アトリ科 真鵙

ハンノキ類の実を好んで食べています。秋から冬にかけて温根内にやってくる定番のアトリ科です。

※前号のノスリの写真に、誤って国の天然記念物という解説を付けておりましたが、ノスリは国の天然記念物に指定されておりませんでした。訂正してお詫び申し上げます。

○温根内木道周辺で観察された鳥（11/15～12/14）

釧路湿原は最低気温が氷点下 10 度以下まで下がる厳しい寒が続いています。そんな中でも、鳥たちは元気に飛び回っています。確認できる種数は少なくなっていますが、オオワシやマヒワなど、この時期ならではの鳥が見られています。ビジターセンターでは双眼鏡を無料で貸し出しております。お気軽にお声がけください。

鳥（和名は日本鳥類目録第 8 版の順）		7	ノスリ	14	ヒガラ	21	キバシリ
1	オオハクチョウ	8	コゲラ	15	ハシブトガラ	22	ツグミ
2	タンチョウ	9	アカゲラ	16	シジュウカラ	23	シメ
3	ハイイロチュウヒ	10	オオアカゲラ	17	ヒヨドリ	24	カワラヒワ
4	トビ	11	ヤマゲラ	18	エナガ	25	マヒワ
5	オオワシ	12	ハシボソガラス	19	ミソサザイ		
6	オジロワシ	13	ハシブトガラス	20	ゴジュウカラ		

☆☆☆☆ 自然ふれあい行事が開催されました ☆☆☆☆

○「クリスマスリースを作ろう」

11 月 24 日 参加者：16 名 講師：甲斐美弥子（リース創作研究家）

クリスマスが 1 か月前に迫るこの日、思い通りの飾りつけでリースを作る恒例の行事を行いました。講師の甲斐氏からは、いつものように参加者各々が自由に飾り付けをして適宜アドバイスするスタンスで開始。土台を選んだ後は、吊るすための糸をつけ、次に飾りを選んで配置します。飾りにはドライフラワーとヒバなどの葉が人気を博し、土台の全面や下半分、様々な



なバランスで彩られていきました。開始 1 時間を過ぎたあたりから徐々にリースの形が出来上がっていき、仕上げのリボン飾りやオーナメントの細かい配置などを講師にアドバイスしてもらう人もおられ、あっという間に 2 時間が過ぎていきました。この日の参加者はどちらかというと慎重に素材を選び、リースに飾り付けを行っていった印象で、端正でよくまとまったリースが目立っていました。皆さまどうぞ楽しいクリスマスを！



○「湿原の『かたち』を見て歩こう」

12 月 8 日 参加者：16 名 講師：藤原伸也（温根内 VC 指導員）

大地、植物、動物、鳥。湿原を取り巻くすべてのものに意味がある——。普段あまり気につけないものにも焦点を当てて、「かたち」の意味するところを考えながら散策しました。まずは木道の入り口で、湿原の地形を語る時に欠かせない「やちまなこ」を紹介。ここに見える低層湿原は一見陸地のようで、実は湖面を植物が覆っているような状態に近いことを理解してもらいました。その後歩く方向を変え、新釧路川右岸堤防方面に歩き出し、堤防道路に着くと上空でオオワシがお出迎え。しばらく歩いたのち、堤防上から



南方に見える階段状の地形は、釧路湿原を囲む「段丘地形」。釧路市街にもこの地形がよく残っていることを説明すると、特に釧路在住の参加者は「ああ、あの坂かあ！」と、納得されていました。1970 年代にはなかった堤防下部にできた水たまりにはちょっとしたアイスバブルができており、じっくり眺めてこのできる仕組みもよく分かりました。最後には雪面に残るタンチョウの足跡も確認でき、体の大きさや脚の形を想像してもらえました。



☆☆☆☆ 冬の温根内 よくある質問集 Q&A ☆☆☆☆

❓ 冬もビジターセンターは開いてるの・・・？



もちろん開いてます！（意外に多い質問でびっくりします！）冬期間は9:00～16:00の間に開館してます。

❓ どれくらい雪が降るの？



ここ北海道の太平洋側は意外と降雪量は少なく、晴れの日が多いです！ただし、気温が低いので積もった雪はなかなか解けません。積雪の深さは、一番多い2月中・下旬頃でも30～40cmくらいです。

❓ どんな楽しみ方があるの？



雪が十分積もったら、歩くスキーとスノーシューを無料でレンタルします。これを履いて雪の上を楽しんでみてください。澄んだ空気の中、湿原の景色や冬の野鳥観察、動物の足跡探しなどが楽しめます！

❓ タンチョウは見られますか？



う～ん、やっぱりこれは運です！なお、鶴居村内などのタンチョウの給餌場に行けば、ほぼ確実にタンチョウが見られます。

☆☆☆☆ イベントのご案内（1月）事前の申し込みが必要です ☆☆☆☆
申し込みは開催日の1か月前から受け付けています

○ 自然ふれあい行事 ⇒お申し込み ☎ 0154-65-2323

♪ 湿原アニマルトラッキング

〔日時〕1月19日（日）10:00～12:00 〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕温根内ビジターセンター

雪の上の足跡や、あちこちに残る痕跡から、湿原周辺の動物の行動と暮らしについて考えます。

○ 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み ☎ 015-487-3003

♪ アイヌ刺繍講座

〔日時〕1月11（土）13:00～15:00 〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕300円（材料費）

〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

♪ 塘路湖の氷上スノーシューで氷丘脈（御神渡り）へ

〔日時〕1月13日（土）10:00～12:00 〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

～今年もお世話になりました～

当センターは下記の期間、年末年始休館とさせていただきます。

どうぞよいお年をお迎えください。

＜年末年始休館日＞

2024年12月29日（日）～

2025年1月3日（金）

（新年の開館は1月4日（土）から）

.....
月刊 温根内通信 No.339

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel：0154-65-2323 Fax：0154-65-2185

E-mail：ovc@kushiro-shitsugen-np.jp

ホームページ：http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/

Facebook：温根内ビジターセンター フェイスブック

開館時間：9:00～16:00（4月～10月は17:00まで）

休館日：毎週火曜日（12/29～1/3は休館）入館無料
.....